

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪府池田市室町7-7		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2792500098&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2792500098&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年3月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむでは、外出、食事作りをメインにできる事は何でもしていただくようにしています。イベントに参加したりお弁当をつくって出かけたり春夏秋冬の行事を大切にしています。年に1度利用者様、ご家族様、職員で温泉旅行に行き、温泉にゆったりと入った後、そして宴会はすごく楽しみにされています。高齢になるにつれ、外出の機会が少なくなってきたのがありますが、グループホームあゆむでは『今できる事、やれること』を考えその利用者様が何を求めているのか内面的な部分も重視しております。中に閉じこもらないように外の空気を吸ったり、季節を感じたり、人と人のふれあい、心と心のふれあいを大切にしていこうと心掛けております

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪急宝塚線池田駅に近い住宅地に位置しており歴史と由緒ある呉服神社が毎日の散歩コースとなっています。池田市室町は外観も意識した美しい街づくりを目指しており、ホーム中の洗濯物の干し場所や干し方にも考慮するなど地域にとけ込むように努めています。利用者には自立支援を心がけており、掃除の得意な方には朝は自身の居室だけでなく廊下なども掃除機をかけてもらったり、食事づくりもそれぞれの役割を持って職員と共に作り上げていく楽しいひと時となっています。開設当初は入居者の出来ること、していただける家事などは限られていましたが、1年を経て利用者の秘められた生活に対する意欲が見られ、地域の方々、職員と共に楽しく毎日を過ごされるよう支援しているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間の話し合いにより一人一人が笑顔でみんなが一つの輪になるようにというホームの独自の理念を作りスタッフ間で共有している	企業理念、社是をもとに、ホーム開設に当たって職員の思いを一つに理念を作られています。職員間で申し送り時に確認し合い、地域を含めて「一つの輪になり」「笑顔」を意識した理念を大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をいかしイベントの参加、近くにある神社での行事に積極的に参加 作物も分けていただく事もある	地域の呉服神社を中心とした自治会である室町会との交流は、ホーム開設当初から節分や夏祭りなどの催しものへの参加をはじめ、日々の散歩に出かけ交流しています。その途中や神社にお参りしている地域の方々とも日常的に挨拶や会話を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に介護での悩み、介護方法等のわからないことなど相談会等を開催し、力になっていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度行い意見交換をしたり、地域との関わりを大事に考えてくださっている	運営推進会議は、呉服神社神主、室町会理事、市職員、民生委員、家族代表等の出席で2ヶ月に一度開催されています。地域の行事、ホームの行事の予定や報告を行っています。地域を代表する方々からは室町の美しい街づくりの観点から多くの助言をいただき、地域の一員として取り組む方向で運営に生かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談、アドバイスをいただいたり質の向上に取り組んでいる	市職員が運営推進会議に出席され、ホームの状況の理解に繋がっています。市役所へ出かけた時には、職員からも声をかけていただきアドバイスを受けてたり相談にのってもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、地域の方との約束もありシャッターと玄関の鍵は日中は解錠、夜間帯施錠している 2階入り口の鍵に関しては以前他施設にて外に行かれたのもあり、ご家族の希望もあり危険防止のために施錠している	身体拘束に関した独自のマニュアルを作成し、社内研修を実施して職員の理解に努めています。家族の要望で施錠している2階出入り口に利用者が居られる時には、声を掛け花の水やりや散歩など同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い虐待について各個人個人が意識し虐待防止に努めている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員にも社内研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとっていただき契約を行っている、あいだいで時間を設け不明な点の説明、質問の時間を作っている。理解して納得いくまで説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様とコミュニケーションをはかり、意見などを積極的にいっていただくように来所の際は声を掛けさせて頂く。発言しにくい時もあるため2階いり口に意見箱を設置している 4月より月に一度、派遣相談員の訪問がある	家族の面会時には声をかけて意見や要望を聞き記録に繋げ職員間で情報を共有しています。利用者の要望の収集に、「気づきメモ」を作り付箋に書いていただき、掲示板に添付しています。例えば「ビールを飲みたい」と書かれていればホームの行事時などに組み入れて飲んでいただく機会にするなど、要望をオープンにし共有するとともに運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中に時間を設け職員1人1人に少しずつ時間をとり話を聞く(日にちに分けて)そこからでた意見や提案などを業務に反映するようにしている	社長も出席する月一度の職員会議にはほぼ全職員が出席して意見を出し合っています。発言しづらい職員については個別に相談にのったり意見等を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける環境になるようお互いが刺激しあい、やりがいや、充実した毎日がおくれるような環境をつくっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員だけの研修になっているところがある 色々なスタッフ(パートなど)にも研修の機会をつくれるような形をとっていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2~3ヶ月毎に池田市のグループホームの管理者、計画作成担当者、リーダーが集まる機会があり、意見交換や各業種の悩み、困難事例などの検討会などをおこなっている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の姿勢をとり本人とコミュニケーションをはかり、じっくりと時間をかけ寄り添い本人が安心できるように信頼関係を築けるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望などに耳を傾け家族が少しでも安心できるような形にもっていけるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が1番必要なのか？スタッフ、家族、本人と話し合う機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の延長、一つの家族としてお互いが支え合える関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフも家族と同じように本人を支えていく関係を築きながら、ご家族にも協力していただく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの仲の良い友人と会ったり、訪問があったり、なじみのある場所へいったりできる限り支援している	友人がホームを訪ねて来られ利用者と一緒に昼食に出かけたり、入居前に住んでいたマンションの管理人が訪ねて来られており、状況によって会話が弾むように支援しています。また、馴染みの場所へは家族に声を掛け協力して頂くようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	うまく接していけてない部分もあるが何をするときでも利用者様同士で協力して頂き、場合によっては職員が間にはいり支援する		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方はいないが、退所された場合は、ご家族様と連絡をとったり、ご本人様に会いに行ったりと関係を続けられるような体制を考えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向にそえるように努力しているが出来ていないこともある	思いや意向は、家族からの聞き取ったり利用者がふと言われた言葉などを、日頃関わっている職員が情報として出し合っています。顔の表情などからも感情を読み取るように努めて、独自の課題分析項目を作って意向の把握をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入居後、家族様来所時など出来る限り情報収集を行いスタッフ間でも共有できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のペースに合わせて一日を過ごして頂き、スタッフが様子観察、見守りなどアセスメント・カンファレンスし現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族・スタッフ間での話し合いの基目標をもち、会議では利用者自身の可能性を考え目標を設定し、介護計画を作成している	必要に応じて随時に担当者会議を実施し、利用者への支援を的確に行えるようにケアプランを作成しています。日々の記録に介護計画を記入し、職員がプランに沿って支援できるようにチェックする体制をとっています。毎月ミーティングでモニタリングを行い、3ヶ月に一度見直しています。必要に応じて医師や看護師の意見を反映するようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を活かしながら情報を共有し業務にあたり工夫、できた事、できなかったことが記録されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出に関しては、系列の介護タクシーに依頼することもできる。安全で安心して外出が出来るように支援している 通院等以外に事業所が送迎に関わらない		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人1人の周りにある多くの地域資源を活用し、尚且つ駅が近い等豊かな暮らし楽しむ事が出来る環境であるため、支えている地域資源を把握し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療の訪問診療 希望がある場合、事業所側が受診が必要と判断した場合は、主治医の先生に相談、家族に連絡する 以前からかかっておられる医師に診ていただく事も出来るように支援している	利用者や家族の要望を聞き、かかりつけ医が選択されています。24時間対応の在宅医療体制が整っており、2週間に一度の内科医の定期往診や随時の往診も可能で、安心の医療体制となっています。また、歯科医の往診も状況に応じて対応がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応してくれる在宅医療の医師や看護師と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ訪問し医師や看護師・ご家族との話し合いを行い 情報交換を行うように努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いの場をもっている 状態の変化にあったケアを行いご家族様と連絡を取り合っている	利用者の家族とは医療が必要になった時には、普段の家庭生活のように対応するなど 重度化について入居時に話し合っています。状態の変化する中では医師から家族に話を伝えてもらっています。重度化や緊急搬送などについてマニュアルに沿って定期的に研修を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング、社内研修などで緊急時の手順や事故発生時の対応について周知徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間の想定訓練をしている 地域との協力体制については運営推進会議時に地域の代表の方から地域の方に話をもっていくことができるようにしている 避難場所なども聞いている	年2回避難訓練を昼夜想定で行っています。運営推進会議で協力を依頼するとともに、地域代表でもある室町会理事や呉服神社にはホームの防火体制を伝えています。職員間では、防火管理者中心に自主点検により習熟するようにしています。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを意識している 不適切な言葉、対応が見られた際は職員同士注意しあうようにしている	考え方の基本として、敬う気持ちを軸とし、人生の先輩として接しています。トイレ誘導も時間にとらわれず、利用者の意向を大切に自然にさりげなく支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択、思いや希望、自己決定できるように声掛けには工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にしているが、スタッフの人数、時間などを気にする時もありペースを合わせられなかったり、希望に沿った支援が出来ていないことがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と毛染めにいたり、マニキュア、化粧などはご自分で出来る方はしていただき、できない方もスタッフの介助にて行っている。服装はスタッフと買い物時に購入したり、家族に持って来ていただいたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・食事作り・片づけなどをその人の能力にあわせ一緒にしていただいている 食事時は職員も同じテーブルに座り楽しく会話をしながら食事をする又外食なども毎月1回イベントを利用者と一緒に考え色々なところに行ったり、お弁当を持って出かける事もある	みそ汁、ぬたや三杯酢などの味付けなど利用者が力を発揮されています。食事は視覚に訴え確認できるよう、献立は料理の写真を見ながら決めてたり、外食時にはメニューをもらってきて料理の写真を見て楽しんでから出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量が分かるように記録をしている 食事が1度に摂取できないときは時間をあけて摂取していただいたり水分はその日その日に応じて声掛けをし水分摂取している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う ご自分でできない利用者はスタッフが介助し口腔ケアを行う		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンがわかるように排泄のチェック表をつけトイレ誘導などの時間を工夫している 夜間ご自分で行かれる利用者に対してはポータブルトイレを活用し支援している	ほぼ自立されている利用者が数人かおられます。状況を把握しさりげない声掛けを行などの支援を行っています。特に夜間のトイレ誘導は睡眠を妨げないようにしつつ、失敗の無いように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、適度の運動を心掛け食事なども考え工夫して提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めているところはあるもその時の状態、時間などは声掛けを行い利用者を優先して決定する 拒否が見られるときは声のかけ方を工夫して入浴していただくよう支援している	週3回の入浴を基本にしていますが、それ以外でも希望に合わせて入浴できるよう支援しています。入居者と職員が一对一の機会となり会話もはずむ時間となっています。温泉旅行や季節の入浴剤なども楽しんでます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないようにすることを前提にその人の体調に合わせてお昼寝などをしていただいで過ごして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧表がいつでも見れて確認できるような形をとっている 薬のケース、日付、名前、いつの食後なのかを読み上げて服用して頂いている 薬の変更や追加などがあつた場合には申し送り、記録を徹底する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味・生活歴などを理解し、その方に合った楽しみを見つけ過ごして頂くように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物、近くの喫茶店、ドライブなどへ出かけたり、家族と外食、外出、美容院へ出かけたりと外出の支援をしている	日常の散歩は呉服神社へ出かけ、献立に沿った買い物や喫茶店などに出かけています。外出希望がある時は食事前でもいつでもかけています。年一回は一泊の温泉旅行に出かけ希望の家族も同行して楽しんでもらっています。	



グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金としてお金をスタッフが管理しておりお買いもの時に自分で支払される方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時電話をしたり、事業所が家族へ連絡する際などに利用者が途中から電話をかわって話をすることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、利用者個人個人が居心地良く過ごせる場所づくりを大切に考えている 混乱しないようにガラッと場所や物を移動したりせず温度の管理も日中、夜間でその日その日に応じて調節している	リビングでテレビを見たり会話を楽しんだり、オープンキッチンからは美味しそうな調理の匂いが漂い、家庭的な雰囲気があります。間もなく1階に保育所が開設となり、子どもたちの声が、ゆったりした階段を通して聞こえてくることになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング～居室までの距離もあり、一人でいたいときは居室で過ごされたり、気の合った利用者同士は居室で一緒にすごされることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族とも相談し居心地良く過ごしてもらうように好みの物を置いたり、ご自分が使いやすい位置に配置したりしている	居室には大きな3段の棚が備え付けられています。使い慣れた、見慣れたものを持って来てもらい、利用者が安心して過ごせる場としての配置を考え、居室の雰囲気づくりをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人1人のADLを把握、本人の力を引き出すように努力しスタッフが情報を共有し、スタッフが手伝い過ぎず利用者が主でしていただくように支援する		